

4. 意見交換

参加者と知事のフリーの意見交換を行いました。

Iさん： 私が民宿を始めたのは、地元のものをお客さんに食べてもらいたい、鰻とか鮎とか、本物を食べてもらいたいということからです。

体験のほうも、そのあとで始めたんですけども、お客さんが自分でとって自分でバーベキューして食べる。とりたてを食べるということを本当に喜んでもらっています。

知事： やはり、リピーターの方、多いでしょう。年齢層はどうですか。

Iさん： 「また来ます」って帰って、今年もリピーターの方が来てくれます。

小さいお子さん、家族連れの方から高齢者の方まで様々です。

Cさん： 知事のお話の中で、観光振興ということで、非常に大きく取り上げておられますが、連絡会の皆さんの話を聞いていただくと、四万十川流域は素晴らしい取り組みをしており、それはグリーンツーリズムの真髄だと思うわけです。観光と重複するところもあるんですけど、やはりグリーンツーリズムというのは、地域のいろんな人づくりであったり、地域づくりであったり、第一次産業の振興につながったりと、違う面があるわけです。行政は、そこが一緒、観光というひとつくりになってしまっていて、非常に勘違いされることがあるんです。

皆さん、もちろん営利は追求していますが、それ以上に生き甲斐の問題であったり、地域づくりであったりといったことで非常に頑張っておられるわけです。

そういった時点でまた違う行政の支援はあるだろうといつも思ってるんですね。

外国に行ってグリーンツーリズムの発祥地を見てきましたけど、やはり、農村と都市は対等な立場で交流をすすめ、地域の山村の経済、また景観が、それによってしっかり守られている。それがグリーンツーリズムの真髄だということを勉強してきました。

そういった面で、観光だけではないというさびわけを県としてもしていただければ嬉しいです。各町村でもお願いしていますが、なかなか町村は職員も限られており、さびわけして対応できないことがあります。以前県は非常に熱心にグリーンツーリズムを進めておりましたが、今は少し見えない部分があります。

知事： 最近、グリーンツーリズムの取り組み、見えませんか。

Cさん： 地域支援企画員だとか、四万十川財団とかがやっていたいでいるんですけど、県全体で、中山間地域の生き残りの策として、このグリーンツーリズムをどう位置付けるかということが見えないんです。

知事： やはり、高知県の場合、地域の暮らしというのは、一次産業が軸だと思うんです。ただ、その一次産業の暮らしというものから派生する産業というのをあわせて伸ばしていくことでもって、地域の全体としての生活を支えていけるようにしていくということが非常に重要だと思っています。

一次産業から派生する産業の典型的なものが、いわゆる加工して売っていくということ。より付加価値をつけて高いお金で売っていける。例えば、馬路村がそれで成功されて、西土佐も非常に盛んにやっておられて、そういう取り組みをしておられるところもあつたりすると思うんです。

もうひとつは、その一次産業の現場、いろんな体験、そういうものそのものを観光資源にしていく。さらには、一次産業と関係なく、そもそも自然そのものを売りにしての観光というのを進められている部分もあると思うんです。修学旅行の誘致にしても、いわゆる農山漁村の暮らしというものを子供たちに体験させるべく、観光資源として生かしたりする。

やはり、一次産業の暮らしがドンとあつて、それに関連する産業、加工であつたり、それに関連する観光であつたりというものを伸ばしていくという取り組みに位置付けて、今、展開をしようとしているところです。産業振興計画でも、そういう産業間の連携というのをうまくやっているところが、県全体として、残念ながら今までちょっと弱かったんじゃないかということで、関連する産業で食品加工とか、それから観光というのを伸ばしていこうとしているところです。

その地域地域で一次産業の取り組みを伸ばしてきたことを、さらにその関連の加工とか観光とかというかたちで、それぞれ地域、農村で一定の拠点ビジネスみたいなものを展開していくことをバックアップしていこうという取り組みをもう一段強化することができないかということを今、考えているところで、それがまず、経済的な系統の話としては第一だと思っています。

もうひとつ、人づくりにつながるとか、さらに言えば、生き甲斐になっているという話もあると思います。もっといえば福祉とか、社会的な見守りとか、まさに移動販売の仕組みなんか福祉そのものに、もうなっておられるんだろうと思います。そういう方向への展開というのもあるんだろうとは思っています。

お話を伺っていると、結局、農家民宿があつて、そこで例えばいろんな農家レストランみたいなものをつくっていく。だんだんその集積ができて、ネットワークの中で地域の方々同士で暮らしを支え合っていくというようなことができてきて

いると思わせていただきました。これはいわゆる経済でお互い生きていくということもありますが、生き甲斐づくりであり、さらにもっと言えば、見守り活動なんかも通じて、いろんな地域の、例えば高齢者の方々を支えていくような仕組みにもなってるんじゃないのかなと思いました。

私としては、そういうふう理解をして、そういう政策を展開をしていきたいと思っていますところ。単に観光振興と単純に割り切っているつもりはありませんけど、そのところ、よく気をつけないといけないところなのかなと思います。

Cさん： 私の地域でいいますと、私のところに泊まっていた方が、1ターンで2人住んでいただいているんです。その存在というのは山間地域のこの高齢化の中、この地域どうなるだろうという中で、非常に大きな力を発揮していて、そういう役割もこのグリーンツーリズムにはあるわけです。

お金を落とすだけでなく、そういった人の資源まで呼び寄せることができる。そういった視点でもグリーンツーリズムは、私は地域を救う大きな取り組みだと思っていますので、そういった視点で是非進めていただきたいなと思います。

Jさん： 四万十川の冬の魚はおいしいです。1月から3月中頃までの魚が一番。

今月27日に、Jさんと長網で川の魚をとって、その場で揚げて食べさそうという企画を立てました。まだ第1回目ですので、反響はわかりませんが。冬のお客も呼んでほしい。冬の魚もおいしいということアピールしたいと思います。

知事： 2月27日、成功しますように、本当にお祈り申し上げます。

オフシーズン対策をやること。それも逆に言うと、伸びる余地があるところですよ。それぞれのイベントを考えて売っていくということは、重要だと思います。県全体だったら3月に「土佐のおきゃく」とかやったりするじゃないですか。あれなんかも3月がもともと少なかったのを少しでもお客さんと呼ぼうということで始めたイベントみたいですが、まさにそういう発想ですよ。

Kさん： 県のネットワークの会長をしており、もう何年も前から名前だけでしたが、今年お声がかかって参加しました。3年前にはメニュー作り、商品作りまでしたんですけど、それ以降ポシャってしまいました。だから、自分たちがどうするかというのが一番大きなことだと思うんですけど、やはり、ネットワークとかを作った時に、作った後の支援とか、地域や行政とかの力がないと絶対にやっていけないというのを私は3年前に実感しています。

立ち上げるのは何でもしやすいです。住民はいろんな考え方があっても、そ

こを引っ張って行く行政の協力がないと何もできないというのをすごく実感しています。

場所によっても、体験とか民宿とかによってもやはり考え方が違うと思うんです。どこがどういうふうにやっていきたいのかというところの相談の窓口というのが、実際に無いわけです。私たちも明日がわからない農家民宿ですので、その経営をしっかりとしていきたい部分と、地域に元気をいただきたいという部分では、行政支援もものすごく必要だなと、つくづく感じております。県のネットワークをもし立ち上げていただければ、真剣に取り組ませていただきますので、行政の支援もお願いしたいと思います。

知事： 行政は1回支援した、補助金出したらそれでしらんぷりということが非常に多かったですというのを言われますが、大事な視点であると思います。

今、地域アクションプランは、むしろ、補助金執行してからのほうが大事だという話で、アドバイザー制度とか、それから、外商公社によって売りこみの支援をしたりとかいうかたちで、アフターケアを、大事にしようと言っています。

今おっしゃられた、いろんな方のご相談なんかをお受けするような窓口について、例えば、ネットワークが、まさにそういう役割を果たすということになるのか、もしくは何かアドバイザーみたいなことなのか、どうすればいいか少し政策を考えたいと思います。

Kさん： 県のネットワークを最初に作った時には、全部のところから集まって、メニュー作りをして観光の売り出しみたいなことをやったんです。ホームページ上でやったんですけど、それが結局何もならず終わってしまって、それから何も無かったの、そういうネットワークを行政側から作ったとすれば、あと、どうするんですかということを知ったんです。

今年またこういう農家民宿グループとか体験ツーリズムを作るとすれば、やはり、どういうふうなかたちで作っていくのか。県としては、グリーンツーリズムは、どういうかたちで進んでほしいのかとか、知事さんがどういうお考えで、そのツーリズムとかを支援していただけるのかなと。県のネットワークはまだあるんですが、やらなかったらやめたほうがいいと思うんです。

このあいだ話し合いがあって、四国のツーリズムの時には、4県がしっかりそういうのをやったほうがいいというのはありましたけど、でも、逆に中身がしっかりしてないと売りにもできないし、各市町村単位で、きちっとしたかたちとかがあればいいですが。

知事： グリーンツーリズムについての考えはさきほどお答えしたとおりです。確かに多面性があるんだというふうに私も思っています。それをどういうふうにこれから県としてバックアップしていくかということの知恵をいただきたいと思い、今日、お話をお伺いしておるところなんです。

ただ、おっしゃられたとおり、やはり、その多面性というところもよくよく意識していきながらも、小規模分散型であることや普通のご家庭を営んでおられた方が立ち上げられたことに対して、人的支援なんかどうしていくかなど、行政としてやっていかなければならない課題はあると、つくづく感じさせていただいております。

県のネットワークが、今、まわっていないという話、担当課と話してみます。どういう政策を練り上げていくか、少しお時間をください。

私は是非、グリーンツーリズムを通じて、地域地域において、ひとつまた生業というものが広く成り立っていくようにしてもらえればと思いますし、これを通じて、若い人達が暮らしていける、また、移住ということなどにもつながっていけるようになればいいと思います。もっと言えば、これが結果として社会福祉の向上につながっていくような仕組みづくりになっていけばいいと思います。そういう総合的な体系として考えさせてもらえればと思います。

Kさん： 大きな部分での観光振興は、本当に龍馬伝であり、呼び込む所は十分にあるわけですよ。ただ、本当に地域の集落集落が生きていくためのグリーンツーリズムというところに、少し着眼をしていただいたらなと思います。

一人ひとりの県民が、自分の力でちょっとずつやっていく、その集合体がグリーンツーリズムだと思っています。地域を生かせる方法というのは、地域住民が一番知っています。それをいかに引き出させていただくかが、例えば、地域支援企画員の方であったりとか行政の方であったりとかなのだと私は思います。

偉い人を呼んできて、本当の良いところはそういった方に習うのも、素晴らしいんですが、地域に入って一緒にしていただくことこそが指導というか、進む道だなど、どこの地域支援企画員の方を見ても密着してやっていただいて、そういうことが素晴らしいなと私は常日ごろ思っています。

地域の一人ひとりが生きていくための施策というのが、グリーンツーリズムだなと思いますので、そこらへんをもうちょっとよろしく願いいたします。

Dさん： 行政の方に手を差し伸べていただくというのを待つというか頼りにするというのも、大変良いことをお願いをしたいんですけど、やはりそれだけでなく、自分たちだけで、やってくれなかったら次はどうしようかと次へ次へ勉強をしていく。ただ、行政だけに頼らないという姿勢をもつことも大事なことだと思います。都

会の人は支援もなく何もないのにいろんなことをやっていて、つぶれている店がたくさんあるわけですけど、田舎の者は、行政に頼って、それでだめだったからだめだというような、頼ってもやってくれなかったらだめだというのではなくて、やはり、自分でやれることはやると。高知県の何もかも行政に頼ってしまうという体質になってはいけなと、今改めて勉強して、私が感じていることです。

知事： グリーンツーリズムの系統は、特に本日の連絡会の皆様はじめとして、民間のほうのものすごく進んでいて、いろいろ経験もされていて、それをさらにもっと伸ばしていく、もしくは他の地域に広げていくという話になる時に、やはりもう少しやらなければならないことがあるなど我々としても実感しているところです。

行政だけに頼らずということによって、すごいことだと思いますけど、行政としてもツボをついたことができ、官民協働できるようになればいいかなと思います。

会長： 四万十川のネットワークで、例えば案内板を作る時に、小さな施設なので、1個1万円でもかなり悩み、地域づくりファンドに応募して半額助成いただいただけでも本当にありがたいなと思います。

なので、そういう実際お金の支援というところは、行政ばかりに頼らないで、自分達で、どこか財源がないかと思い、地域支援企画員の人達が、こんなのに応募したらと持って来ていただいたりして、今もトヨタ財団に応募しています。

このネットワークは5市町村にわたっていて、会があれば、場所によっては移動時間に2時間かかります。身近なところであれば、すぐ相談ができて事務的なこともすぐできると思うんですが。そういう集まりなので、一番今、ありがたいなと思っているのは、地域支援企画員の人たちが流域に居て、その方たちのネットワークを通じて連絡網もしっかりできていること。それから、四万十川財団で、細やかに事務手続きを手伝ってくださっていること。これがなければ、なかなかこのネットワークも先へ進むのは、自分たちの力だけではとても難しいと思うんです。

具体的に、こういうことがしたいということがある時、例えば、この案内板作りたいのでどうしたらいいかという時に、実現するまで相談に乗っていただきました。

今一番お願いしたいことは何なのかと考えてみたところ、やはり地域支援企画員の方たちの活躍と、それから、(四万十川財団の)事務局がお手伝いしてくださっていることを是非このまま、あるいは、さらに強化して市町村の支援もいただきつつ、この流域の活性化につなげたいなと思っています。

このすみずみツーリズムは、今日の発表者の話を聞いて、それぞれの取り組み

があって、それが全て一次産業や四万十川の自然に根ざされたものであるということ、どれだけ大切な活動をされているのかが改めてよくわかったんですね。

今日、発表されていない参加者の方も言っていただいたら、もっともっとそれがすごいことになるんだなと、知事にも四万十川の宝物を見ていただけたんじゃないかと思います。是非これを地産外商で売り出していくお手伝いもよろしくお願ひしたいと思います。